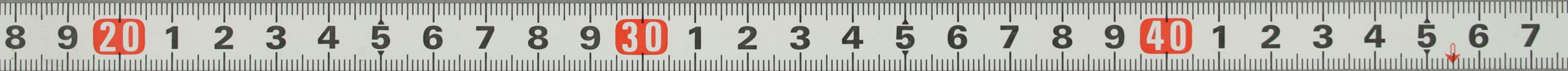


役者評判記

子13
3849
72





後者出清
後者出清
後者出清

江戸
尾張 伊勢

文化
印

九十七
絲
染

于多
286
128
100

于多
3849
72

特

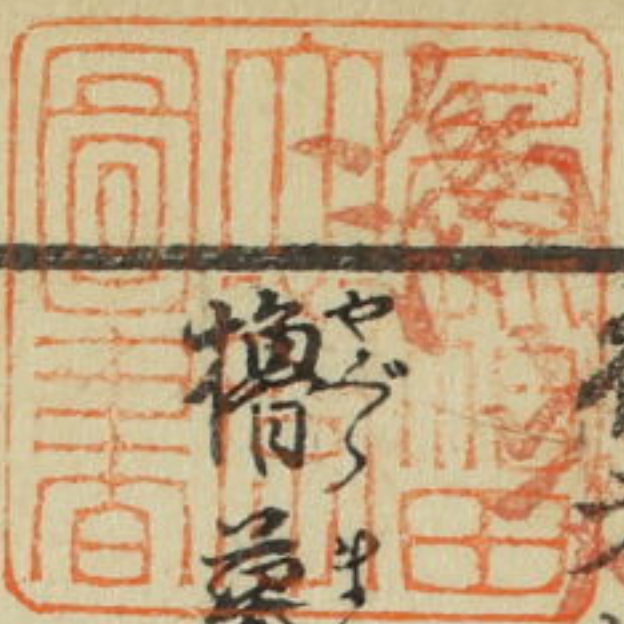




後者出世

氣品定

目録



樽幕の様

赤



一まき紙のおま

於

汗

三

日

かゝ車又糸の川へく

切やの母を

大井

は明もいつも志れ

連管の三重

櫓の鏡に本流の玄冥

東道一

顔の世提

連中の

あなとせの

京大板を

名代

名代

名代

名代

名代

名代

名代

名代

盛 京大板二

上上書

嵐松之帝

京都

上上

市川園之帝

京都

上上

大谷門之帝

京都

上上

小川之帝

京都

上上

中山之帝

京都

上上

沃村徳之帝

京都

上上

嵐源之帝

京都

上上

之掛系之帝

京都

上上

坂東之帝

京都

上上

中山新之帝

京都

上上

石之帝

京都

上上

▲実徳之帝

京都

上上

浅尾之帝

京都

上上

浅尾奥山

京都

上上

嵐冠之帝

京都

上上

嵐園八

京都

上上

▲実徳之帝

京都

上上

桐野之帝

京都

上上

甲村林之帝

京都

京都

京都

京都

京都

京都

京都

京都

京都

京都

京都

京都

京都

京都

京都

京都

京都

京都

京都

京都

上
くうくよのあまのうとて宮
相傳俊方の多の御
いひこめくまきておのの袋井の

上上
坂東少太夫のあり
中村海老蔵のあり

上
浅尾重兵衛のあり
上片岡卯兵衛のあり

上
上麻十郎のあり
上山内夏彦のあり

上
上嵐夕霧のあり
上嵐利次のあり

上
上中島重吉のあり
上大友松彦のあり

上
上坂東海老蔵のあり
上中山万太郎のあり

上
上浅尾重兵衛のあり
上市川淡島のあり

上
▲頭取のあり
浅尾重兵衛のあり

上
市山脚常のあり
中山半三郎のあり

上
▲乃布形のあり
坂東海老蔵のあり

上
上上
上上

上
上上
上上

上
上上
上上

上
上上
上上

上
上上
上上

善女形巻首
上書
いつれもくもくひれおのの御
▲善女形之部
中山よりのあり

善女形巻首
上書
の川見てもうつうのあり
中村大友のあり

上書
▲善女形之部
かろりあめでま評判のあり
可憐子のあり

上上
外よりひてのあおののあり
中村歌六のあり

上上
此君よあまのひ付のあり
嵐富三郎のあり

上上
雅もあまをいふのあり
着川清之助のあり

上上
か出陣のあり
浪村系三郎のあり

上世 五

上上 ひとをききおのりふり川
山下運ぎく あり

上上 ことやらよふふあひある
ふぶ川

上上 志方川といふ川の
二又川

上上 志方川といふ川の
志方川

上上 志方川といふ川の
志方川

上上 志方川といふ川の
志方川

上上 志方川といふ川の
志方川

上上 志方川といふ川の
志方川

上上 志方川といふ川の
志方川

上上 志方川といふ川の
志方川

上上上 上吉
おとろひてふたえそあ
志方川

上上 志方川

上上 志方川

上上 志方川

上上 志方川

上上 志方川

上上 志方川

上上 志方川

▲水例色子之部
一斤とらるる

▲水例色子之部
一斤とらるる

一 嵐安之介 一 おとと岡松
一 嵐久之介 一 嵐十浪節

▲ 有例色子之部

一 嵐大之介 一 嵐冠十郎
一 嵐腰之介 一 中山重助
一 あさの方又介 一 清尾貞経
一 山平之介 一 あさの方又
一 嵐十之介 一 あさの方又

▲ 惣寒之部

大上書 片園仁九郎 水口

何でもうけとるの 五州

▲ 籠子方之部

水口の方 ありの方
一 張 後本万里 一 張 中村与次
一 百 後本佐吉 一 一 洲出八公
一 百 后五方吉 一 一 中村孝吉
一 三 彦 後本為守 一 彦 後本為守
一 百 中村由之介 一 一 中村修八

一 口 嵐向十郎 一 一 中村徳之

一 一 後本佐吉 一 一 中村与次

一 一 後本佐吉 一 一 洲出八公

一 一 中村孝吉 一 一 中村孝吉

一 一 彦 後本為守 一 彦 後本為守

一 一 中村由之介 一 一 中村修八

一 一 中村与次 一 一 中村与次

一 一 洲出八公 一 一 洲出八公

一 一 中村孝吉 一 一 中村孝吉

一 一 彦 後本為守 一 彦 後本為守

一 一 中村由之介 一 一 中村修八

一 一 中村与次 一 一 中村与次

一 一 洲出八公 一 一 洲出八公

▲ 在云代若之部

水口の方 ありの方

並本三四郎 近松陽助

並本彦彦 回辺孫七

兼河射平 近松源助

一寸ヤト上甲次

一去年冬奇異最妙の能者二と云は
名人遠く幸の國での時程之行後
由へ發祥もゆくと云はる女取の女家
芳法氏を祀つてて彼國の系
別別習多分たに紀しゆと

巳年九月三日 俗者 履園万能
学海院湛詮日深信 終年卒少

千辛八月廿三日 近松徳之
一如院亮體日相信 終年卒少

巳年十二月廿五日 芳法氏之
觀常院了性信士 終年九五少

千辛八月廿六日 芳法氏之
芳岸院巴紅統信 終年卒少

寺の谷所 本照寺
釋世 魂柄、 巴紅

神の居る處

頭取

一寸のびり中々度集此者病中上法
方之甚若好具功者方之漸事合延り
及ひ何備混雜い一書換去程も有
此の細詳は書水小津流より全と云ふ所
よる下と云也

開口

おて原の海花の浦川ゆと編ぶ秋見世
藝品定も道歌城小建鉦抱灯が
秋を冬の春世をふれと云は四條河原
也と云ふ事記に我業被地居れども
如例年物振着藝定は合合好乃
乃由之て宛て國處も改め給ふ
子も藝評よりらぬとの天宮
催しも

▲ 巻首

至正吉 龍 龍首三節 系五例

編 此れ松浦公の事也 龍首三節 系五例
此の事也 龍首三節 系五例
此の事也 龍首三節 系五例
此の事也 龍首三節 系五例
此の事也 龍首三節 系五例
此の事也 龍首三節 系五例
此の事也 龍首三節 系五例
此の事也 龍首三節 系五例
此の事也 龍首三節 系五例
此の事也 龍首三節 系五例

此の事也 龍首三節 系五例
此の事也 龍首三節 系五例
此の事也 龍首三節 系五例
此の事也 龍首三節 系五例
此の事也 龍首三節 系五例
此の事也 龍首三節 系五例
此の事也 龍首三節 系五例
此の事也 龍首三節 系五例
此の事也 龍首三節 系五例
此の事也 龍首三節 系五例

七十一

その志を盡く勤を極むるは中世にて
三神紀の切な祖傳を承傳書に在りて
以後書に流るるの志を凡そ傳合のは大
にその志を盡く勤を極むるは中世にて
三神紀の切な祖傳を承傳書に在りて
以後書に流るるの志を凡そ傳合のは大
にその志を盡く勤を極むるは中世にて
三神紀の切な祖傳を承傳書に在りて
以後書に流るるの志を凡そ傳合のは大

其の志を盡く勤を極むるは中世にて
三神紀の切な祖傳を承傳書に在りて
以後書に流るるの志を凡そ傳合のは大
にその志を盡く勤を極むるは中世にて
三神紀の切な祖傳を承傳書に在りて
以後書に流るるの志を凡そ傳合のは大
にその志を盡く勤を極むるは中世にて
三神紀の切な祖傳を承傳書に在りて
以後書に流るるの志を凡そ傳合のは大
にその志を盡く勤を極むるは中世にて
三神紀の切な祖傳を承傳書に在りて
以後書に流るるの志を凡そ傳合のは大

去歲二やともおれかていふこと四西三郎大
通よりと三平のよるもく五西三郎大
かたの親娘ははけし由りおれはとていふか
手紙内にておれと西三郎のふりかへし
おれどいかにとていふ四西三郎大
もとていかにいふか五西三郎大
見事とていふか六西三郎大
よるもく七西三郎大
ゆきふか八西三郎大

上上 回 市川團三郎

西三郎大とていふこと九西三郎大
二のり氏谷おれとていふこと十西三郎大
よるもく十一西三郎大
ゆきふか十二西三郎大
ゆきふか十三西三郎大

ゆきふか十四西三郎大
ゆきふか十五西三郎大
ゆきふか十六西三郎大
ゆきふか十七西三郎大
ゆきふか十八西三郎大
ゆきふか十九西三郎大
ゆきふか二十西三郎大
ゆきふか二十一西三郎大
ゆきふか二十二西三郎大
ゆきふか二十三西三郎大
ゆきふか二十四西三郎大
ゆきふか二十五西三郎大
ゆきふか二十六西三郎大
ゆきふか二十七西三郎大
ゆきふか二十八西三郎大
ゆきふか二十九西三郎大
ゆきふか三十西三郎大

ゆきふか三十一西三郎大
ゆきふか三十二西三郎大
ゆきふか三十三西三郎大
ゆきふか三十四西三郎大
ゆきふか三十五西三郎大
ゆきふか三十六西三郎大
ゆきふか三十七西三郎大
ゆきふか三十八西三郎大
ゆきふか三十九西三郎大
ゆきふか四十西三郎大

出世



三國無雙奴請狀
十一月八日

本在龜谷奈並



指振靈驗定伏討
十一月五日

本在袋塚橋並



七世
古大五之十九

より一切の郡を道にあらせしめ別て
將之を兼て治すに務めんとす
あるに於ては道に治すに治すに
治すに治すに治すに治すに
治すに治すに治すに治すに
治すに治すに治すに治すに
治すに治すに治すに治すに
治すに治すに治すに治すに
治すに治すに治すに治すに

上 中山素之命

中山素之命は伊弉諾大神の御孫
伊弉諾大神の御孫伊弉諾大神の御孫
伊弉諾大神の御孫伊弉諾大神の御孫
伊弉諾大神の御孫伊弉諾大神の御孫
伊弉諾大神の御孫伊弉諾大神の御孫
伊弉諾大神の御孫伊弉諾大神の御孫
伊弉諾大神の御孫伊弉諾大神の御孫
伊弉諾大神の御孫伊弉諾大神の御孫

天神紀云これより中後述す
伊弉諾大神の御孫伊弉諾大神の御孫
伊弉諾大神の御孫伊弉諾大神の御孫
伊弉諾大神の御孫伊弉諾大神の御孫
伊弉諾大神の御孫伊弉諾大神の御孫
伊弉諾大神の御孫伊弉諾大神の御孫
伊弉諾大神の御孫伊弉諾大神の御孫
伊弉諾大神の御孫伊弉諾大神の御孫

上 伊村徳壽

伊村徳壽は伊弉諾大神の御孫
伊弉諾大神の御孫伊弉諾大神の御孫
伊弉諾大神の御孫伊弉諾大神の御孫
伊弉諾大神の御孫伊弉諾大神の御孫
伊弉諾大神の御孫伊弉諾大神の御孫
伊弉諾大神の御孫伊弉諾大神の御孫
伊弉諾大神の御孫伊弉諾大神の御孫
伊弉諾大神の御孫伊弉諾大神の御孫

上吉の事は上吉はそのめでたき
[三] 来る事を見よとの事なり

▲ 実悪之部

上上吉 (五) 浅尾去方

[四] 実悪の就玉珠鬼出必去玉相
右と云くも勅を以て凡各辨別吉市
のみ出勅 [五] 世に成る所より不
と物本根節の事あり [六] 其の
本を去り [七] 其の事あり [八] 其
合毛利の事あり [九] 其の事あり
の事あり [十] 其の事あり [十一] 其
[十二] 其の事あり [十三] 其の事あり
[十四] 其の事あり [十五] 其の事あり
[十六] 其の事あり [十七] 其の事あり
[十八] 其の事あり [十九] 其の事あり
[二十] 其の事あり [二十一] 其の事あり
[二十二] 其の事あり [二十三] 其の事あり
[二十四] 其の事あり [二十五] 其の事あり
[二十六] 其の事あり [二十七] 其の事あり
[二十八] 其の事あり [二十九] 其の事あり
[三十] 其の事あり [三十一] 其の事あり
[三十二] 其の事あり [三十三] 其の事あり
[三十四] 其の事あり [三十五] 其の事あり
[三十六] 其の事あり [三十七] 其の事あり
[三十八] 其の事あり [三十九] 其の事あり
[四十] 其の事あり [四十一] 其の事あり
[四十二] 其の事あり [四十三] 其の事あり
[四十四] 其の事あり [四十五] 其の事あり
[四十六] 其の事あり [四十七] 其の事あり
[四十八] 其の事あり [四十九] 其の事あり
[五十] 其の事あり [五十一] 其の事あり
[五十二] 其の事あり [五十三] 其の事あり
[五十四] 其の事あり [五十五] 其の事あり
[五十六] 其の事あり [五十七] 其の事あり
[五十八] 其の事あり [五十九] 其の事あり
[六十] 其の事あり [六十一] 其の事あり
[六十二] 其の事あり [六十三] 其の事あり
[六十四] 其の事あり [六十五] 其の事あり
[六十六] 其の事あり [六十七] 其の事あり
[六十八] 其の事あり [六十九] 其の事あり
[七十] 其の事あり [七十一] 其の事あり
[七十二] 其の事あり [七十三] 其の事あり
[七十四] 其の事あり [七十五] 其の事あり
[七十六] 其の事あり [七十七] 其の事あり
[七十八] 其の事あり [七十九] 其の事あり
[八十] 其の事あり [八十一] 其の事あり
[八十二] 其の事あり [八十三] 其の事あり
[八十四] 其の事あり [八十五] 其の事あり
[八十六] 其の事あり [八十七] 其の事あり
[八十八] 其の事あり [八十九] 其の事あり
[九十] 其の事あり [九十一] 其の事あり
[九十二] 其の事あり [九十三] 其の事あり
[九十四] 其の事あり [九十五] 其の事あり
[九十六] 其の事あり [九十七] 其の事あり
[九十八] 其の事あり [九十九] 其の事あり
[一百] 其の事あり

いふ事あり [一] 其の事あり [二] 其の事あり
[三] 其の事あり [四] 其の事あり [五] 其の事あり
[六] 其の事あり [七] 其の事あり [八] 其の事あり
[九] 其の事あり [十] 其の事あり [十一] 其の事あり
[十二] 其の事あり [十三] 其の事あり [十四] 其の事あり
[十五] 其の事あり [十六] 其の事あり [十七] 其の事あり
[十八] 其の事あり [十九] 其の事あり [二十] 其の事あり
[二十一] 其の事あり [二十二] 其の事あり [二十三] 其の事あり
[二十四] 其の事あり [二十五] 其の事あり [二十六] 其の事あり
[二十七] 其の事あり [二十八] 其の事あり [二十九] 其の事あり
[三十] 其の事あり [三十一] 其の事あり [三十二] 其の事あり
[三十三] 其の事あり [三十四] 其の事あり [三十五] 其の事あり
[三十六] 其の事あり [三十七] 其の事あり [三十八] 其の事あり
[三十九] 其の事あり [四十] 其の事あり [四十一] 其の事あり
[四十二] 其の事あり [四十三] 其の事あり [四十四] 其の事あり
[四十五] 其の事あり [四十六] 其の事あり [四十七] 其の事あり
[四十八] 其の事あり [四十九] 其の事あり [五十] 其の事あり
[五十一] 其の事あり [五十二] 其の事あり [五十三] 其の事あり
[五十四] 其の事あり [五十五] 其の事あり [五十六] 其の事あり
[五十七] 其の事あり [五十八] 其の事あり [五十九] 其の事あり
[六十] 其の事あり [六十一] 其の事あり [六十二] 其の事あり
[六十三] 其の事あり [六十四] 其の事あり [六十五] 其の事あり
[六十六] 其の事あり [六十七] 其の事あり [六十八] 其の事あり
[六十九] 其の事あり [七十] 其の事あり [七十一] 其の事あり
[七十二] 其の事あり [七十三] 其の事あり [七十四] 其の事あり
[七十五] 其の事あり [七十六] 其の事あり [七十七] 其の事あり
[七十八] 其の事あり [七十九] 其の事あり [八十] 其の事あり
[八十一] 其の事あり [八十二] 其の事あり [八十三] 其の事あり
[八十四] 其の事あり [八十五] 其の事あり [八十六] 其の事あり
[八十七] 其の事あり [八十八] 其の事あり [八十九] 其の事あり
[九十] 其の事あり [九十一] 其の事あり [九十二] 其の事あり
[九十三] 其の事あり [九十四] 其の事あり [九十五] 其の事あり
[九十六] 其の事あり [九十七] 其の事あり [九十八] 其の事あり
[九十九] 其の事あり [一百] 其の事あり

相の谷は海に於ては筆三股の谷の如く切
相の谷は海に於ては筆三股の谷の如く切
相の谷は海に於ては筆三股の谷の如く切
相の谷は海に於ては筆三股の谷の如く切
相の谷は海に於ては筆三股の谷の如く切
相の谷は海に於ては筆三股の谷の如く切
相の谷は海に於ては筆三股の谷の如く切
相の谷は海に於ては筆三股の谷の如く切
相の谷は海に於ては筆三股の谷の如く切
相の谷は海に於ては筆三股の谷の如く切

上上 己 相の谷行す糸

相の谷は海に於ては筆三股の谷の如く切
相の谷は海に於ては筆三股の谷の如く切
相の谷は海に於ては筆三股の谷の如く切
相の谷は海に於ては筆三股の谷の如く切
相の谷は海に於ては筆三股の谷の如く切
相の谷は海に於ては筆三股の谷の如く切
相の谷は海に於ては筆三股の谷の如く切
相の谷は海に於ては筆三股の谷の如く切
相の谷は海に於ては筆三股の谷の如く切
相の谷は海に於ては筆三股の谷の如く切

上上 崇崎屋敷

ふす様のすのろのりげん中巻く他と
ごんもさのぬれ済むとてほろとあつ
洋もあつてそののせぬあつて月神に
▲ふせく部

上 嵐るき部 ぬき
上 嵐芳き部 ぬき
上 市山き部

ふす様のすのろのりげん中巻く他と
ごんもさのぬれ済むとてほろとあつ
洋もあつてそののせぬあつて月神に
▲ふせく部
中山小き部 ぬき
相山段部 ぬき
嵐村き部 ぬき

嵐三ハ 口の
芳淡いろは 口の
上吉部 三林徳部 ぬき

ふす様のすのろのりげん中巻く他と
ごんもさのぬれ済むとてほろとあつ
洋もあつてそののせぬあつて月神に
▲ふせく部
中山小き部 ぬき
相山段部 ぬき
嵐村き部 ぬき
嵐三ハ 口の
芳淡いろは 口の
上吉部 三林徳部 ぬき

くの時者付等しと見は友はは時辨別
受中して時時のか玉根あつたうと
[五]十の正系はは列を夜てか勤の修是の四は故
中分る中中流は深中一切程之能事
来然やと谷谷とふ勤あふは今物とさう
中し[五]十の正系はは列を夜てか勤の修是の四は故
入るやと深く時時[五]十の正系はは列を夜てか勤の修是の四は故
さくふやと深く時時[五]十の正系はは列を夜てか勤の修是の四は故
程之[五]十の正系はは列を夜てか勤の修是の四は故
中[五]十の正系はは列を夜てか勤の修是の四は故
こそ目出度おとく

公文自笑述

文化八年

未の正月吉日

板元東西く三羽蓋若敷彼者藤公申定
辨別記之義校年未流布し中し
[五]十の正系はは列を夜てか勤の修是の四は故
之を辨別[五]十の正系はは列を夜てか勤の修是の四は故
年[五]十の正系はは列を夜てか勤の修是の四は故
件辨尾張博中その程をと不漏の類
さ[五]十の正系はは列を夜てか勤の修是の四は故
至極微細は辨別付仕[五]十の正系はは列を夜てか勤の修是の四は故
公衆之通は相替戻中し清水山境下
は板とみ[五]十の正系はは列を夜てか勤の修是の四は故

- 江戸 每油町 鳩屋 赤右衛門板
- 名古屋 幸町十日 松屋 善言 高板
- 系助 寺町北上 松屋 安言 高板
- 大板 八文字屋 八光寺 門板
- 心持 指板 物所 河内屋 吉 助板

出世

京大坂

流光舟画
役者物のまゝ
三ヶは役者之存せ
画幸

同書四
同百人一首化粧鏡
自笑著

此本と序子違方乃清持抄入と持以百人一首の
類と云若くは序の抄又仕組役者等あり相違乃
すぐと云似る存まうの(後言六歌仙源氏十
志つけ方未てもも要くまて序又見立玉極
おりのるき言あり)

同画
同後篇巾之種
昔篇同様之存
似るの多けん

一陽齋豊國畫
戲場別家図彙
或亭三馬戲編
全部 五冊

此書之芝居代り実と和漢別家図彙よりな
らむと西之く似し幸也 齋藤より云云存れり
道々立此家役者の家名姓名年中終り後若
のりや付其外芝居より云云云々云々云々
委しく云ありり(役者初る乃追出と実
又此本と云れを芝居代り幸八誠と云生云云)

芝居案内両面鏡
獨案内代事也
幸牧抄本

松好命画
芝居禁
岩井風呂代根幸
全部 三冊

此本之名無團七時雨傘乃根云せり幸六序
より大如と似顔終入しと書甚甘(幸之
先と目れを芝居と云ふも同様と云也又
不抄善あり(序)序は序玉極と云云云
幸と云(序)序は序玉極と云云云)

同画
言此葉
平井權八の根幸也
全部 五冊

一名思和久廓形氣
忠臣蓮理鉢植
植木や根幸
全部 貳冊

同画
川崎音頭
伴勢十人切根幸
五冊

全画
棧橋物語
日本左衛門根幸
六冊

全
壁生草
五人切の根幸
四冊

全
淡乃志砂
石川五右衛門根幸
五冊

菊
花
嵐来世之
全部 二冊

七世
吉大後

春好並書
名目眼乃切子
右半屋八帛共情根本
四冊

猿吳門出乃諷
おき八情多情の根本
三冊

つづみし螺
和因大八矢救の根本
六冊

箱根純初花
いとつみの情対の根本
八冊

裁切はさ
築紫の巻二日ね云
五冊

役者用文章直指箱
武冊

増補裁切はさ
四冊

役者一口高
三冊
此書ハ二枚芝居ハ初めより二年くは揚子ハ初めより
くまの全芝居ハ初めより二年くは揚子ハ初めより
芝居の茶や酒や付帯と打燈ハ役者用芝居ハ初めより
年中約半屋云々紫の巻ハ初めより二年くは揚子ハ初めより

名古屋面芝居地役者目録

編者 美品 橋岡玄成

名代 千代七右衛門 初代 初代
彦平 後川象帝 後代 後代

立役者部

上吉 嵐吉右衛門 小舟

上上世 三株太右衛門 口元

上上一 赤川宗右衛門 橋元

上上 中山小太郎 橋元

上上 三條宗右衛門 尾

上上 沼村徳三郎 尾

上上 高村中兵衛 尾

上

嵐丸堂 日産

上

行基活佛 博

上

山科活佛 日産
山科活佛 日産

立後巻廂

上吉

中山百花 日産

高城聖堂 日産

実徳部

上吉

法蓮堂 日産

高野山 日産

実徳部

上吉

浅尾園山 日産

高野山 日産

上吉

嵐丸堂 日産

高野山 日産

上上

嵐丸堂 日産

高野山 日産

上上

桐山院 博

高野山 日産

上

伊村林 日産

高野山 日産

上

相持院 日産

高野山 日産

上

浅尾右衛門 博

高野山 日産

上

浅尾右衛門 博

高野山 日産

上

三井寺 日産

上

三井寺 日産

上

三井寺 日産

上

三井寺 日産

上

三井寺 日産

あじふ 日産

一正 河内三つ一山 行末のつ指
三條天宮

陸奥部

上上 嵐源流 以り

上上 源村紀之女 日

上 市山合宿 抄

上上吉 義母部

上上吉 津村大志 以り

上上吉 時世活もあ敷の 後者

上上吉 中村の月 抄

上上 幣列のまはらあ地 歌海

上上 辰川燦之助 以り

上上 どんくともありの 舞臺

上上 浪村京市 抄

上上 信向のあつとあつと 以り

上上 山科 志志 以り

上上 だて下村あつと 以り

上上 三條京市 抄

上上 久々のつとつと 以り

上上 中山京市 抄

上上 いろりつとつと 以り

上上 芳浜万代 抄

上上 けいのつとつと 竹破

上上 辰川京市 以り

上上 ちりつとつと 以り

上上 市川京市 以り

上上 ちりつとつと 以り

上上 山科 志志 以り

上上吉

時蔵子

ふりまゝに御りし能成

御成子後と部

上上吉

姉川隠台

ふりまゝに御りし能成

上

相の巻終三神

ふりまゝに御りし能成

上

市川右兵衛

ふりまゝに御りし能成

上

行長万々

ふりまゝに御りし能成

惣巻油

大上吉

行長仁義

ふりまゝに御りし能成

立役と部

上上吉



嵐巻三席

ふりまゝに御りし能成

ふりまゝに御りし能成

ふりまゝに御りし能成

ふりまゝに御りし能成

ふりまゝに御りし能成

ふりまゝに御りし能成

ふりまゝに御りし能成

ふりまゝに御りし能成

ふりまゝに御りし能成

ふりまゝに御りし能成

ふりまゝに御りし能成

ふりまゝに御りし能成

ふりまゝに御りし能成

てその評判の古例湯をそと
どく **町分** あらびの汗をまき

改元 初月十有初の如く湯成る

陰盛陰漸其之夜 **日口** 松を

ねる **上** 松を

は **改元** 中 **思** 思

見であり来 **思** 思

ま **思** 思

の **思** 思

の **思** 思

ら **思** 思

傳 **思** 思

ま **思** 思

と **思** 思

と **思** 思

と **思** 思

と **思** 思

と **思** 思

と **思** 思

と **思** 思

と **思** 思

と **思** 思

と **思** 思

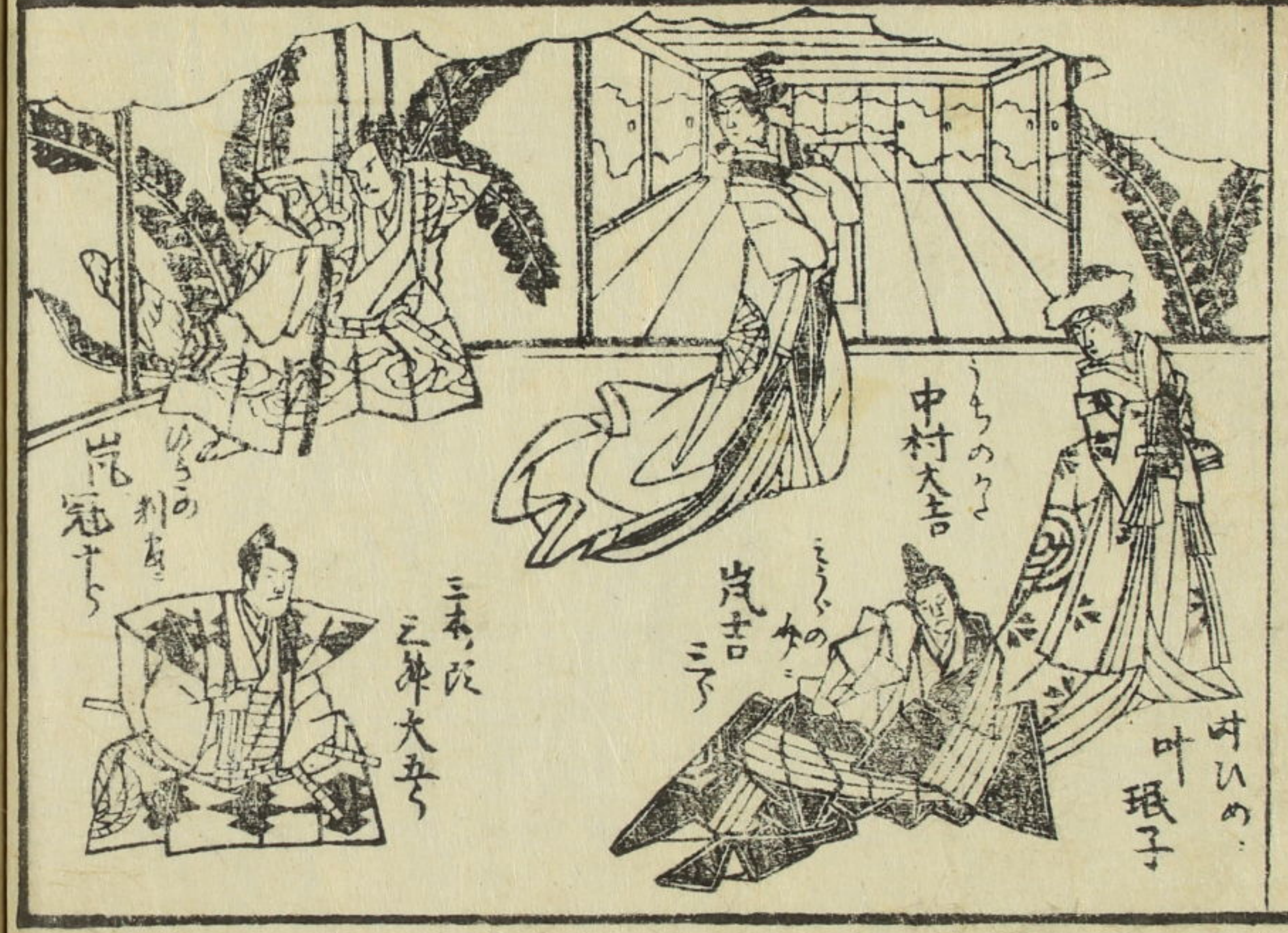
と **思** 思

と **思** 思

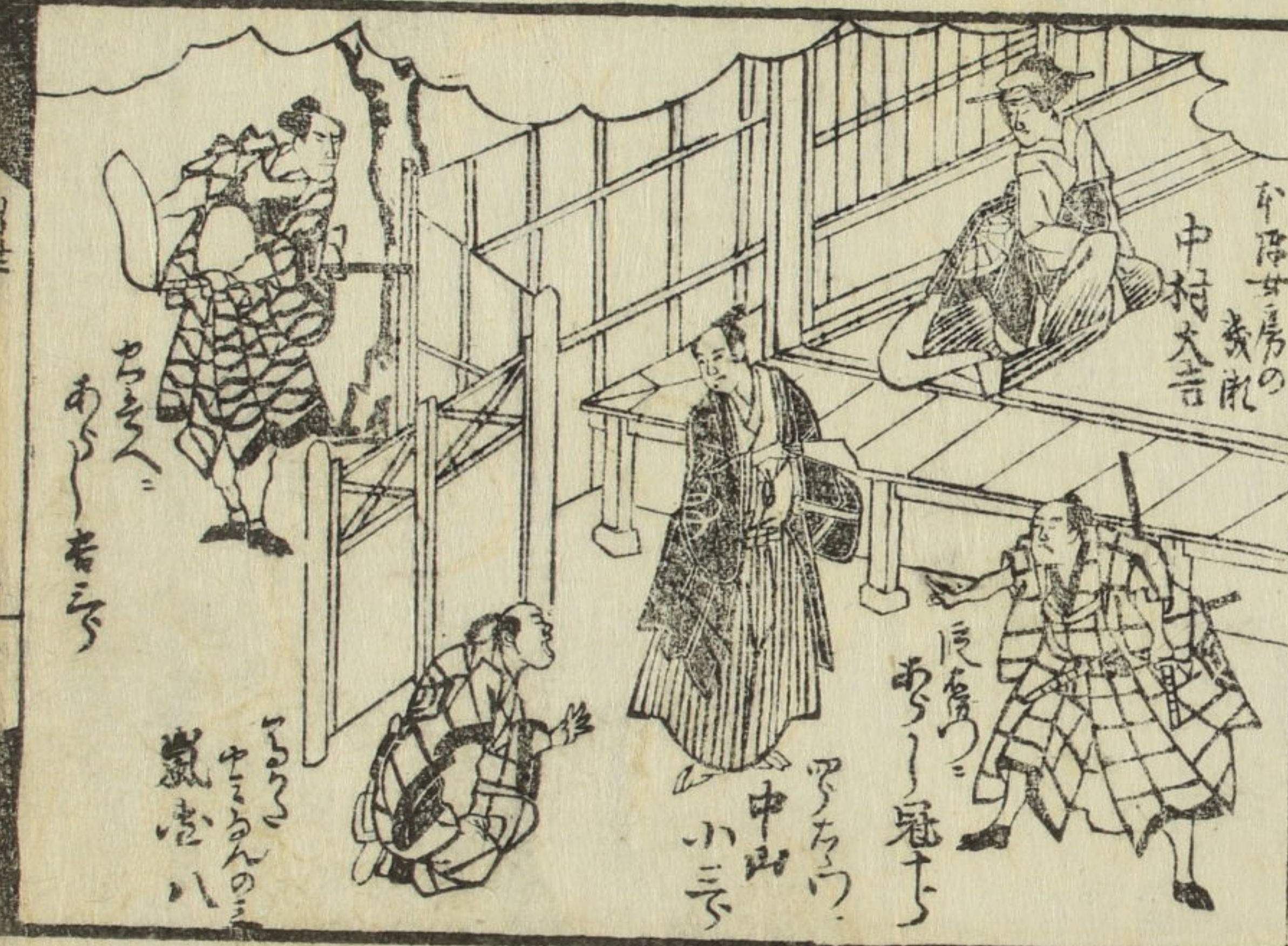
と **思** 思

と **思** 思

午四月十五日ヨリ
 近江源氏先陣館 座本
 坂川龜三郎



八月朔日ヨリ
 龜為替花街控奉 座本
 坂川龜三郎



あしき者
 中村大吉
 小三
 中村大吉
 小三
 中村大吉
 小三

一 漢字の月がはなとまのるのを
 是くはる何れかかたはる
 けんといふことあるらん
 信され地中の母らんらん
 一 招中庭をりよめらんらん
 すらんらん 陽光文らんらん
 らんらん 兄四若 らんらんらん
 月らんらんらんらんらん 作未
 つらんらんらんらんらん 改九 又
 翠らんらんらんらんらんらん
 遊の若女役 若若 らんらんらん
 出らんらんらんらんらんらんらん
 らんらんらんらんらんらんらん
 とらんらんらんらんらんらんらん
 後らんらんらんらんらんらんらん

一 漢字の月がはなとまのるのを
 是くはる何れかかたはる
 けんといふことあるらん
 信され地中の母らんらん
 一 招中庭をりよめらんらん
 すらんらん 陽光文らんらん
 らんらん 兄四若 らんらんらん
 月らんらんらんらんらん 作未
 つらんらんらんらんらん 改九 又
 翠らんらんらんらんらんらん
 遊の若女役 若若 らんらんらん
 出らんらんらんらんらんらん
 らんらんらんらんらんらんらん
 とらんらんらんらんらんらんらん
 後らんらんらんらんらんらんらん

五月廿三日 三國無双奴請狀 三つんめを
 茶川座 関取不内櫓 上中下



六月十日 本朝北四孝 大つんめを
 掃所 緑合檻樓錦 五月廿
 六あまのつ



子甲
 中山百 花
 長考画

役者出情嘯

藝品定

江戸三巻

舞出くま

立役が舞臺の仕内を

かきまもあ

女形乃立もの

研まき實恵れ

舞ふりり

うつりけり

鏡の間

いしり

おしり

もろ

お江戸の

三度

みだり

あし

あし

江戸三書指惣設者同証

三書 中村勘三郎

三書 市村羽左衛門

三書 森田勘次郎

○凡そ是後物老物老方の

惣巻頭 三幅封

上書 坂東三河守

上ひのき三つ大いさの

中書 松本重四郎

仕内之入より

石上書 中村勘三郎

ひのきの

立役

上書 藤野傳高

ねま

上書 沢村源三郎

新ぬの

上書 尾上松助

所^りの^りお^りの^り 織物

上上書 淡尾重^の命 市田

上上書 市川口^の命 市田

上上書 尾上^の命 市田

上上書 市川市^の命 市田

上上書 市山^の命 市田

上上書 中村^の命 市田

上上書 荒木^の命 市田

上上書 坂本^の命 市田

上上書 小川^の命 市田

上上書 市川^の命 市田

上上書 市川^の命 市田

上上書 市川^の命 市田

上上書 市川^の命 市田

上上書 市川^の命 市田

上上書 市川^の命 市田

上上書 市川^の命 市田

上上書 市川^の命 市田

上上書 市川^の命 市田

上上書 市川^の命 市田

上吉

▲実ある物
以村松又市 市村松

上上

いっしよも宝のの 惣松彌
大谷川口 口松

上上

後中よりとつりも 老松
山嵐 松松 老松

上上

魚の住むところ 松松
山嵐 松松 市村松

上上

更松とま後との 松松
以村松又市 市村松

上吉

▲老切の物
庵上松松 市村松

上上

更松とま大入と 松松
松松 松松 市村松

上上

▲松後く物
市川村松又市 市村松

上上

市川松三市 市村松

上上

実とて下も松松 市村松

上上

松市松又市 市村松

上上

口松とありあり 市村松

上上

あつたを松松 市村松

上上

後中よりとつりも 市村松

上上

松松とま後との 市村松

上上

松松とま大入と 市村松

上上

松松とま後との 市村松

上上書

激川邊之市 中村

上上書

風張いじつ... 市村

上上書

市村

上上書

三條邊... 市村

上上書

激川邊... 中村

上上書

市川邊... 市村

上上書

市川邊... 市村

上上書

市川邊... 市村

上上書

市川邊... 市村

上上

中村

上上

激川邊

上上

市村

上上

市村

上上

市村

上上

市村

上上

市村

上上

市村

上上

市村

はの社内いあひと

▲子波之部

上上十

松本源之助

市村元

いりも白も赤やししい かいと

上上一

柳子登金堂

市村元

こまわりようみはつる 柳子

上上

岩井登之助

中村元

つこころも全えゆり 系張

上上

沢川多門

口元

たうえんもよいらしき 藤原

上上

坂本善助

市村元

秀桂史代の息と見え 生納

上上

岩井松之助

口元

大方かきあらしの 山田

上上

沢村源平

中村元

上上

市川元亮

坂田元

尾上登之助 中村元

沢川元亮 中村元

沢川元亮 中村元

中村篤之助 市川元亮

市川半次郎 沢村元亮

沢村元亮 市川元亮

岩井源之助 市川元亮

市川元亮 市川元亮

市川元亮 市川元亮

坂田元亮 市川元亮

山村元亮 坂田元亮

▲数巻巻物 三幅対

功上吉 立役 柳高屋之助

中 市川元亮

大極上吉 若女形 瀬川仙女

右 市川元亮

真上吉 立役 坂本元亮

上 市川元亮

▲市川元亮之部

上上吉 中村元亮

末ひらきいりては人の 知る事

上上吉

中村七三郎

慶長

上上吉

中村の石

慶長

上上吉

市村の石

慶長

上上吉

森田の石

慶長

上上吉

坂東喜喜

慶長

▲改取之部

中村

坂田時義

市村

坂東喜喜

小川

中村時義

▲

松河篤助

藤田全次

慶長

中村

本庄宗七

松平

今村吉助

松平喜三

勝 儀

梶 回

市村

門田宗助

法 回

孫 浦

浪 水



大和寺夫 名見寺徳派
安和寺夫 法門 友派

○ 市村庄



江戸寺夫河東之山彦河段
一寸見寺夫法 新ひ



常盤津寺夫 法門 経船
寺子寺夫 法門

一〇 栗田庄



大滝層源寺夫法門 妙也



安本寺夫 法門 子孫
細寺夫 法門

千穂寺夫 法門

○ 岡庄

習師當此のそん業といふる
かろく宗教より抑あひ
合そのおとつひとればそ中
よも寺子孫法むり
もんぞくとつらつてき中村庄
本村庄の霜月法門よりおし
ゆり市村庄へおひくは四
三庄うらそらひお人の句
三番庄あけ七ツめよりけ
ゆり東のうらうら入道
栄所八百八所の御め
あこもひも富貴寺所これぞ

いふ所の意は、殺し并に拉致人との
仕度から得ず、とて浮世にもよくて いひ
係り込められし時、井戸に懸りて、
と死なぬ、あつても、獄に禁れとの、
よびて、あつても、あつても、
桂木、いふ、と、
堀、
刀、
其、
物、
浄、
う、
ふ、
取、
中、



神上吉口 松本章中節

市村

いふ所の意は、殺し并に拉致人との
仕度から得ず、とて浮世にもよくて いひ
係り込められし時、井戸に懸りて、
と死なぬ、あつても、獄に禁れとの、
よびて、あつても、あつても、
桂木、いふ、と、
堀、
刀、
其、
物、
浄、
う、
ふ、
取、
中、



雪月花黒主
千十月総目より

中村屋



四天王権政石
千十月総目より

市村屋



観車雪高樓
千十月総目より

赤田屋



中山
市

工
二
三

世に於ては、
中村仲助

上上 中村仲助

上上 荒木宗茂
中村左

上上 坂東惣十郎
中村左

上上 小川十右衛門
中村左

上上 市川左衛門
中村左

上上 市川右衛門
中村左

上上 市川右衛門
中村左

上上 市川右衛門
中村左

上上 市川右衛門
中村左

上上 市川右衛門
中村左

上上 市川右衛門
中村左

上上 市川右衛門
中村左

上上 市川右衛門
中村左

上上 市川右衛門
中村左

上上 市川右衛門
中村左

上上 市川右衛門
中村左

上上 市川右衛門
中村左

上上 市川右衛門
中村左


上上 市川右衛門
中村左

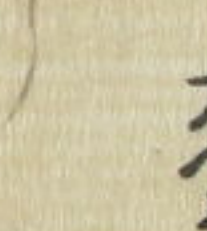
上上 市川右衛門
中村左


上上 市川右衛門
中村左


上上 市川右衛門
中村左


上上 市川右衛門
中村左


此曲ありて後之に傳ふは其の曲の如く
上上一  市川宗三郎 市川


此の曲は其の如く傳ふは其の曲の如く
上上  松本園平 市川


此の曲は其の如く傳ふは其の曲の如く
上上  山村儀三郎 日守

此の曲は其の如く傳ふは其の曲の如く
上上  松本小次郎 日守

此の曲は其の如く傳ふは其の曲の如く
上上  沢村浪之助 中村

此の曲は其の如く傳ふは其の曲の如く
上上  中村治郎 市川

此の曲は其の如く傳ふは其の曲の如く
上上  坂東長流 日守

此の曲は其の如く傳ふは其の曲の如く
上上  市川徳三郎 中村

百九 修述控被檢者身妙院あり申うを
あり申すも赤きやてて申すこく

▲中乃欲之邪

上上士 中村東麓 中村左

百九 若果出へぬと存てのより人せしより年及
親と出さうと様びゆれを懐き望みはた故
九月二日 御座り申八高り申すこ七 百九 修述
控へ汝之成改國と考をいれて病を成る
去りてをいりて改と考より申す存ありと
きての年法現れは侍有る申すこ七 百九 為親
見せよと御座り申す十をさ申道より修述
よひされとをたをさかうもはくもたは
ゆあうのうをたをさかうもあよこの侍有る
おとらひしひ申すこ七をのよひをた
人御座り申す侍有る申すこ七をのよひをた

上上二 桐乃修女あり 奥田左

百九 若果存すよ赤き國をい勤をさう申す
ゆかるとをさけられ七をたをさかうも
年法よりさう申すこ七をたをさかうも
女去美師は御座り申すあんと申すこ七を
娘ありゆとあひ下女のかさと抱へてはら
ありのよひをた

上上三 坂東大寺 布村左

百九 若果存すよ赤き村をい勤をさう申す
申す別を存すをたをさかうも女ありとをたを
引は侍有る申すこ七をたをさかうも女
と候ておまは川流より流流計は出合る
藤やとゆびと申すの申すこ七をたをさ
よひをたの御座り申すこ七をたをさ
をのうらふ大あり

せいのりてあまき今心のりか

上上吉



山下八尾巻 市村を

乃此爰市村た新ちけ山ふんてごりま
とゆふあひひらとち新ちせあふんえ
村振種ごごせふまご一ぬれふごせふまよ
そめひ服こなふよごごうゆごせふまねと
ち白敷あく新念く退く山出候とゆふれう
取付のあひらふまふご一ぬれをせうか
これうまふのよあふん今心のり

上上吉



可二三巻のり一巻のり

乃叶氏八海まきまふご一かふんせの
中ふふのりてごりま一ぬれをせふまねと
ぬれふまふごごせふまふごせふまねと
ぬれふまふごごせふまふごせふまねと
ぬれふまふごごせふまふごせふまねと
ぬれふまふごごせふまふごせふまねと

上上+



三條源江 市村を

乃此爰市村た新ちけ山ふんてごりま
中ふふのりてごりま一ぬれをせふまねと
ぬれふまふごごせふまふごせふまねと
ぬれふまふごごせふまふごせふまねと
ぬれふまふごごせふまふごせふまねと
ぬれふまふごごせふまふごせふまねと

上上吉



淵川源考 中村を

乃此爰市村た新ちけ山ふんてごりま
外 乃此爰市村た新ちけ山ふんてごりま
此爰市村た新ちけ山ふんてごりま
乃此爰市村た新ちけ山ふんてごりま
乃此爰市村た新ちけ山ふんてごりま
乃此爰市村た新ちけ山ふんてごりま

五区に後出妻をてく後之生かゆかた
後者仕内うの七く水る座のあらむよるに

上上  中村妻助 中村

際あるるをせし清土のさそふぬる夫
ゆわとあらけ暖のふれりよとぞちやうと日
の出るあめあけいふとや

上上  濃川源清 中村

際濃川生かゆと仕方あかぬとあ
うるよあつとま中二をあのかさる
とらよとぞちやうと

上上  岩井梅蔵 中村

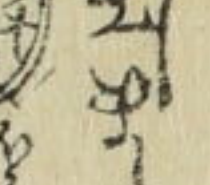
際あるるをせし清土のさそふぬる夫
ゆわとあらけ暖のふれりよとぞちやうと日
の出るあめあけいふとや

上上  芳沢福三郎 中村

際中村たけと出動中一及氏とぞちやうと

あるるは清土とあせりのあひよとぞく

ゆわとあらけ暖のふれりよとぞちやうと日
の出るあめあけいふとや

上上吉  岩井中郎 中村

際若女取れぬ者大忍でとぞちやうと日
の出るあめあけいふとや

ゆわとあらけ暖のふれりよとぞちやうと日
の出るあめあけいふとや

ゆわとあらけ暖のふれりよとぞちやうと日
の出るあめあけいふとや

ゆわとあらけ暖のふれりよとぞちやうと日
の出るあめあけいふとや

ゆわとあらけ暖のふれりよとぞちやうと日
の出るあめあけいふとや

ゆわとあらけ暖のふれりよとぞちやうと日
の出るあめあけいふとや

上上吉 坂東喜多寺 後見

坂東中村をわらぶとてなる真の如く夫々
しりあてて七帝出の帝はよふ名く
おぼやとあそぶの如くえくといふ人
末のありて七帝村を慶賀する事
よのひと後者とあつて真の由
見世の天をてつて坂東の真見
くあつて三帝村を慶賀する事

文化八年未正月吉日 他者 自筆

一寸はひらひら

経波所淡村を相果られ跡
則戒名とた元一

常篤院信譽道阿居士 漱川仙女
六十集

寺の本所押上大運寺

文字を分る

河内を志す 板元

上上吉 坂本喜彦 後見

石中村をわらぶとるを真の如く人
どもあつて七帝出の者よふ者よ
おぼやかしむる有ふえくといふ人よ
未のりし七帝村を慶會をたると
よのひを後者とてあつて真の如く
見せのたふとてあつて坂本氏の後見
くあつて三帝村をたると七帝村

他者 自笑

文化八年未正月言

公字屋分り
河内をたると
板元

坂本喜彦
石中村をわらぶとるを真の如く人
どもあつて七帝出の者よふ者よ
おぼやかしむる有ふえくといふ人よ
未のりし七帝村を慶會をたると
よのひを後者とてあつて真の如く
見せのたふとてあつて坂本氏の後見
くあつて三帝村をたると七帝村

